

## モニタリングシート（児童学科）

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
1	前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況か。	・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策	向上・改善施策を踏まえ、学科 FD 研修をはじめとして、学科内での問題意識の共有や関連事項の検討を進めているが、完全に改善できているとは言えないため、FD 研修をはじめとして継続して学科内で共有を図りながら取り組みを進めていく。	留学などによる外国語の運用能力は、ここ数年の検討事項であるが、早急な改善というよりは新学部移行後に検討の必要がある。	今年度の FD で関連するテーマの研修を実施。教員と代表学生とのディスカッションの場を設け、学科の問題や今後の展望等を意見交換する。
2	経年でみた志願者動向はどのような状況か。	・各種入試結果（入試区分別・高校ランク等）	各種入試結果より志願者状況の把握に努めた。引き続き学科内で志願者動向の共有を図ると共に、入試広報課とも協力して大学案内の作成や高校訪問を継続し、積極的な広報活動に努める。	経年でみた志願者数の推移は2009年以降、減少傾向が続いている。志願者の減少の状況を鑑み、学科の魅力向上を大学案内でうまく魅せられるよう、入試広報課と積極的にコミュニケーションを図る。広報的な観点によるカリキュラム等の教学部分の検証・把握に努める。	学科内で入試広報委員を中心に魅力向上のポイントを議論し、必要な事項については検討を進め、可能な限り実行する。
3	経年でみた新入生の動向はどのような状況か。	・新入生アンケート（第一志望・選択理由・本学への期待等）	児童学科の入学者は本学を第一志望としている者が8割以上を占めていた。本学の主な選択理由として「学びたい学問がある」「就職に有利（就職率が良い）」「資格取得・キャリアサポート」であった。また本学への期待として「免許・資格の取得」が約8割を示し、さらには卒業後に希望する進路としては「資格を活かした職業に就く」が7割以上を示していた。 引き続き学生の状況を把握しながら免許・資格の取得や就職の支援に努める。	入学者のニーズとして就職、免許・資格取得のサポートを期待していることから、今後は現状にて実施している免許・資格取得および資格を活かした就職への支援・サポートを、より確実なものとして実行していく必要がある。	新入生アンケートの結果の共有を行い、新入生のニーズの十分な把握に努める。

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
4	DP・CP と関連したカリキュラムが各学位プログラムレベルで適切に設計されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムマップの状況</li> <li>ALCS 学修行動比較調査（経験）</li> <li>卒業時アンケート（経験）</li> </ul>	<p>・昨年度カリキュラムマップの見直しを行い、各授業の DP 修得の実態に即したマップの整備をすることができた。特に約 6 割を占めていた「知識・理解」と、1 科目のみの配分しかなかった「自立性」の偏りを解消した。引き続き各授業の DP 修得の実態の関連を把握して CPDP の連環を意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度カリキュラムマップの見直しを行ったものの、学位プログラム全体の DP の配分には偏りが見られる。特に「汎用的技能」「相互理解・対話」の配分が少なく、DP の見直しは喫緊の課題である。</li> <li>・卒業時アンケートからは「外国語を使う能力」の修得度が低くなっており、カリキュラムの見直しが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学の DP 見直しのスケジュールに合わせて、新学科への移行を視野に置きながら、学科 DP の見直しを行う。</li> <li>・新学科への移行を見据えながらカリキュラムの見直しを行う。</li> </ul>
5	カリキュラム・授業は、適切に運営されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート</li> <li>ALCS 学修行動比較調査（経験）</li> <li>卒業時アンケート（経験）</li> <li>最低修業年限卒業率</li> </ul>	<p>カリキュラムマップ作成時において DP 項目とカリキュラムの関連を意識した作成に取り組むとともに、各科目のシラバスの作成時およびシラバス第三者チェックにおいて DP との関連が実現されるように取り組む。</p>	<p>卒業時アンケート、ALCS 学修行動比較調査結果より、汎用的技能の外国語の運用能力および数量的データを含む情報収集・分析に関する技能の習得に関する学習経験・満足度が低い。</p>	<p>児童学科の専門科目には教職課程・保育士養成課程の科目が多く含まれているが、その中で DP に沿った学位プログラムレベルにおけるカリキュラムの実施について検討し、シラバス作成に活かす。</p>
6	DP にもとづく学修成果の到達度の状況。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェネリックスキル測定テスト（3 回生）</li> <li>ALCS 学修行動比較調査（修得度）</li> </ul>	<p>ALCS 学修行動比較調査ならびに卒業時アンケートから外国語の運用力について成長実感に乏しい。</p>	<p>外国語の運用能力についての成長実感に加え、PROG によると特にコンピテンシーが 1 回生から 3 回生にかけて落ち込む傾向がある。</p>	<p>授業において国外の状況を取り上げ、必要に応じて外国語文献を取り上げるなどを検討する。PROG おいて、コンピテンシー低下の要因を検討する。</p>
7	進路・就職及び免許・資格取得状況。	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時アンケート（修得度）</li> <li>進路・就職結果データ</li> <li>免許・資格取得状況</li> </ul>	<p>進路・就職状況は、学科の特性を反映したものになっている。免許・資格取得状況も全体として良好である。</p>	<p>保育士の取得率が 2022 年度に下降した。</p>	<p>保育士取得率の下降が、対応必要な課題なのか否か確認し、必要ならば対応を検討する。</p>

No.	モニタリング項目	データ	データから見る点検結果（概要）	課題	改善へのアクション
8	各科目の成績および卒業論文・研究が適切に評価されているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各科目の成績分布</li> <li>卒業論文・研究の判定結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで成績評価に関し、各科目で著しい成績のばらつきがみとめられたため、同一科目、複数教員で実施される科目については事前打ち合わせ等を行い標準化を行っている。</li> <li>卒業論文・研究の判定については、ルーブリックを試行的に取り入れ、評価の標準化、可視化を図る試みを行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SS ランク（100 点）について、科目間格差が大きく、多くの科目では 0 % が最多であるが、受講生の 100%あるいは受講生のほぼ 100%が SS である科目が散見される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常勤が単独担当する科目において、適正な評価がなされているか再検証が必要。</li> <li>卒業論文・研究の判定については、ルーブリックを試行したことに対する評価を行い、よりの確な評価を行うためのルーブリック作成を行う。</li> </ul>
9	職位・年齢のバランス、非常勤比率に留意し、かつ、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>所属教員の状況</li> <li>科目群別非常勤比率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員ひとりあたりの学生数が非常に多く、実習指導、訪問等、個別丁寧な指導に支障をきたしている。</li> <li>専任教員が退職した後の採用がなく非常勤に依存せざるを得ない状況。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学と比較すると教授の数がやや高いが、とりわけ課題であるのは教員ひとりあたりの学生数である。教員の負担はきめ細やかな個別教育が行き届かない状況。男女比も 7：3 と大きい。</li> <li>専任教員が退職した後の採用がなく非常勤に依存せざるを得ない状況である。</li> </ul>	改組後の実習指導体制等の検討が必要である。
10	学科個別の FD について、課題認識および今後の方向性、外部環境を踏まえた FD を実施できているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>FD の取り組み状況</li> <li>前年度点検シート</li> <li>自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策</li> </ul>	ICT を活用する力を身につけた成長実感が乏しいことから、実践上の成果や課題が共有・確認された。	学生たちが情報を共有し、思考したことやイメージしたことなどを文字化・映像化できるなどの成果が期待される反面、ICT を活用する力を着実に身につけていることに無自覚なのではないか、ということが見いだされた。	教員と代表学生（20 名程度）とのディスカッションの場を設け、ICT だけでなく、学科の問題や今後の展望等を意見交換することを次回の FD 研修でのテーマとする。
11	上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項（提案）」があれば入力	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種データ</li> </ul>	進路・就職状況について、公立への合格率は良好であり、新学部移行後も継続していくことが重要である。	志願者数の減少傾向にともない、入学者の学力偏差値が過去最低となっている。新学部学科の魅力向上をいかに行うかが重要である。	改組後の学力維持について、早急な検討が必要である。